『スマイル1,000プロジェクト』　800スマイル突破！

学生インターン常時受け入れ。若者と政治の距離を縮める！

いつでもどこでも、お近くまで出張県政報告会！

知多半島の仲間と共に、新しい答えを！

かわい洋介さんを応援しています

愛知県知事	大村秀章
東浦町長	神谷明彦
阿久比町長	竹内啓二
前衆議院議員	伴野豊

愛知県議会議員 知多郡第一選挙区（東浦町・阿久比町）

かわい洋介

生年月日：1979年（昭和54年）5月21日　39歳
現住所　：愛知県知多郡東浦町大字石浜

● 略　歴

1998年　愛知県立時習館高校卒業
2002年　大学在学中にアメリカへ1年間留学
2003年　上智大学経済学部経営学科卒業
　　卒業後、人材系民間企業にて営業職に従事
2005年　衆議院議員ばんの豊秘書
2007年　統一地方選挙愛知県議選立候補　次点
2011年　同選挙初当選（13,364票）
2015年　2回目の当選（13,349票）
現　在　議会にて、産業労働委員長、振興環境副委員長、
　　会派の政策調査会長などに従事
　　連合愛知政策推進議員懇談会　代表幹事
　　JR東海ユニオン地方議員団会議　幹事長
　　国民民主党青年委員会　副委員長
　　国民民主党愛知県第8区総支部　幹事長
　　ボーイスカウト東浦1団　育成会長
座右の銘　百術は一誠にしかず
　　※小手先で百のことをしても、一つの誠（誠意）にはかなわない。
　　誠実さこそ最上の策である。

2019年"篤い想い"増刊号

愛知県議会議員 **かわい洋介**

県政活動レポート

kawaiyousuke521
kawai.yousuke.official
kawai-yousuke.com

かわい洋介です。よろしくお願いします。

すべての人に、居場所と出番のある共生社会をつくる。
住みよい愛知をつくるために、
馴れ合わず、しがらみに囚われず、
変えることを恐れずに挑戦し続ける。
人の痛みを知り、
小さな声を聞き逃さず、大きな声に惑わされず、
よく聞き、よく発し、よく行動する。
かわい洋介39歳、そういう議員で私はありたい。

2011年の県議選で知多郡第一選挙区（東浦・阿久比）の議席をお預かりしてから8年、本当に目一杯仕事をさせていただきました。感謝の気持ちで一杯です。この8年間の県会議員として活動は「県政レポート」やホームページで随時報告させていただきました。仕事を覚え、経験を重ねるにつれ、なすべき事柄が明確に見えてまいりました。それらをきちんとカタチにしてお示しすることこそ議員の仕事と心得ます。今後ともご指導・ご支援いただきますようお願い申し上げます。

〒470-2101 愛知県知多郡東浦町森岡前田24-14 JR武豊線「尾張森岡」駅すぐ前　TEL 0562-84-4411　FAX 0562-84-3150

すべての人に、居場所と出番のある共生社会をつくる！

すべての人に、居場所と出番のある共生社会を

私が政治活動を始めて以来、また議員活動を通じ、常に考えているのがこのことです。
順風満帆で他人の助けなんか全く必要ないという人たちや、苦労しらずで生きてこられた恵まれている人たちには必要ないかもしれません。だからこそ、政治は弱い人の立場に立って進めねばなりません。
私は、すべての人が輝くことのできる、すべての人に居場所と出番のある共生社会を目指しています。それが私の考える「優しい社会」です。
偉い人とその周辺の人たちだけが、したり顔で暮らす社会は健全ではありません。今は何だか「優しくない社会、意地悪な社会」になってしまっているように思えてなりません。それでは絶対にいけません。

大きな時代の変わり目に、次世代に向けて

上から目線NO！

今、社会は激動の時代です。
人口減少、超少子高齢化は、コトバ遊びではなく確たる数字を伴って我々の目の前にあります。私が成人式を迎えた時（今から約 20 年前）、全国で 163 万人いた新成人は、本年 120 万人となり、昨年生まれた赤ちゃんは 94 万人です。反面、今年から年金を受け取る 65 歳の方は 220 万人以上居ます。社会が変化しているのなら、制度設計そのものも変化していかないといけません。
私は、旧来型の政治家とは違い馴れ合い、しがらみ、一切なし、河合洋介だからこそできる活動を続けていきます。先人に感謝しつつも、決して前例のみにとらわれず、未来志向の提案を続けていきたいと思います。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。

優しい福祉をはぐくむ

どれだけ歳を重ねようと、いかなる障がいをお持ちであろうと、社会の一員として共に生きていける社会を目指しています。そのためには、新生児医療の充実から始まり、特別支援教育、障がい者雇用、そして高齢者福祉まで切れ目のない取り組みが必要です。
知多半島には、あいち小児保健医療総合センターがあり、国立長寿医療研究センターもあります。子ども医療から高齢者医療まで、非常に大きな恩恵を受けています。2018年4月には、新たに知的障がい特別支援学校である、大府もちのき特別支援学校も開校しました。認知症対策だってそうです。認知症は高齢者特有の病気だと思われがちですが、そうではありません。若年性認知症を含む認知症対策、広く介護などは、誰もが直面する課題です。
困ったときはお互いさま、誰もが支え合える社会を目指し制度を見直していかなければなりません。乳幼児から、児童生徒、そして青年、壮年、老年と、障がい者にとっても健常者にとっても、すべての人に居場所と出番のある、共に支え、共に生きる社会をつくつていきたいと思います。

白血病・骨髄バンク・ドナー支援を実現！
いよいよ4月より愛知で始動!

魂込めて、「日比プラン」の実践！

特別支援学校、ゴミの家庭持ち帰りを改善！

活力のある地域経済をつくる

元気な愛知をつくっていくのはそれぞれの地域です。行政や大企業だけが担うものではありません。全企業の実に99.7%は中小企業、小規模企業です。そうした企業が元気にならずして、地域経済は盛り上がりません。人手不足、働き方改革、事業承継、起業、融資制度など、様々な施策は中小企業の目線で行うべきです。行政の地元調達に関しても制度化するべきです。地元の商工会の皆さまをはじめ、地域経済を支えていただいている皆様のお声をどんどんお聞かせください。公共も、民間活力を活用する時代に来ています。知多半島道路を含む8路線は現在、民間事業者が運営しています。阿久比PAには「愛知多の大地（仮称）」の構想も進んでいます。東浦町では、県内初のPFI方式による県営住宅の建て替えが行われます。こうした動きは民間の力を大いに取り込んで、地域の活力に繋がつていってくれるものと思います。

安全で住みやすい町をえがく

東北、熊本など多くの災害から得た教訓を活かして、防災減災に向けての様々な取り組みが行われています。消防や警察といった行政のみならず、消防団や自主防災会、見守りパトロールのボランティアの皆様など、地域の皆様の多くの活動によって支えられています。
愛知県は15年連続、交通死亡事故死者数が全国ワーストです。可搬式オービスの増強や、事故危険箇所の対策を進め、交通安全に向けて取り組んでいます。通学路の安全確保も急務です。ようやく、阿久比川の除塵機の更新も終わり、東浦町の豆搗川にも自転車橋が架かりましたね。地域のみなさんと一緒に、安全で住みやすい町を描いていき ます。

馴れ合い、しがらみ、一切無し。